



地球環境問題を
解決するための、
商品・技術・サービスの
創造に努めます。



木質資源の 有効活用にご貢献する 木質バイオマスシート

活動時期 2016年4月～現在

活動場所 日本全国の木質資源を取り扱う事業所

再生可能エネルギーとして期待されている木質バイオマス。その利用施設である発電所やバイオマスボイラの稼働数の増加によって、燃料となる丸太や木質チップは資源量の確保はもちろん、品質の向上という課題を抱えています。この解決手段として、当社では木質バイオマス保管・乾燥シートTOPTEXによって、木質燃料の屋外保管という新たな方法を提案し、木質資源のより有効な利用の拡大を進めています。

活動の
目的

バイオマスの利用施設へ燃料供給を行う事業者に求められるのは、安定供給を行うために十分なストックを持つこと、そして燃料の品質を上げることです。燃料の品質確保のための新たな選択肢として、国内の木質資源を有効的に利用できる木質バイオマス用保管・乾燥シートを提案しています。

取り組み
成果

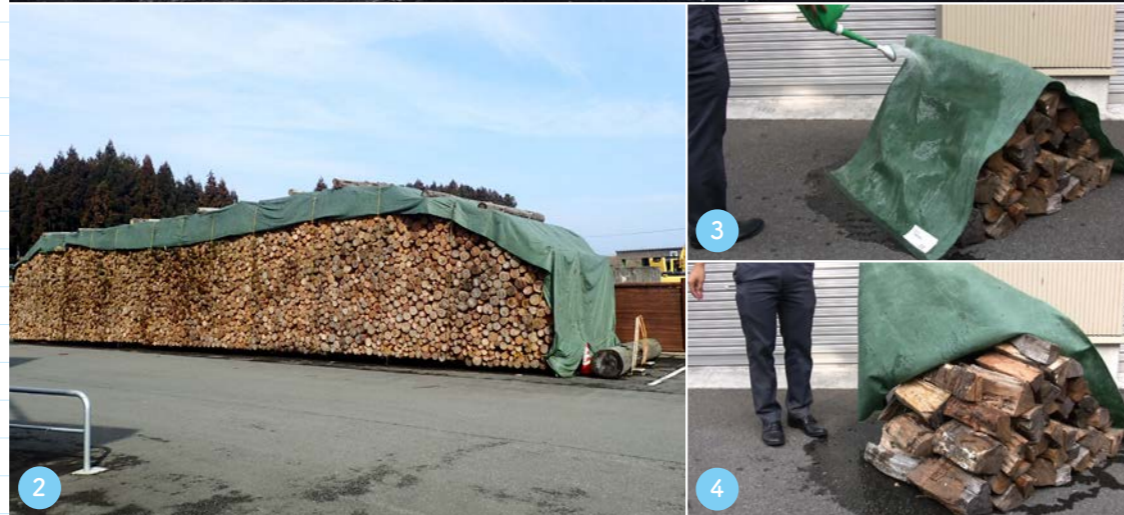
シートを用いて乾燥が促進されることで、固形燃料として得られる発熱量が増加するため、その分だけ限りある木質資源のサステナブルな利用に貢献します。さらに、ブルーシートより耐用年数が長く、保管用の倉庫も不要となるため、資材の利用量も抑えることが可能となります。現在は北海道から九州まで、日本全国の約80事業所で広くご利用いただいています。

今後の
目標・
課題

現在、木質バイオマス保管・乾燥シートTOPTEXを実際にお使いいただいているお客様へのヒアリングを行い、直接届いたご要望やご意見を参考に、より良い利用方法を検討・提案しながら、この製品の付加価値をさらに向上させていくことを目指しています。



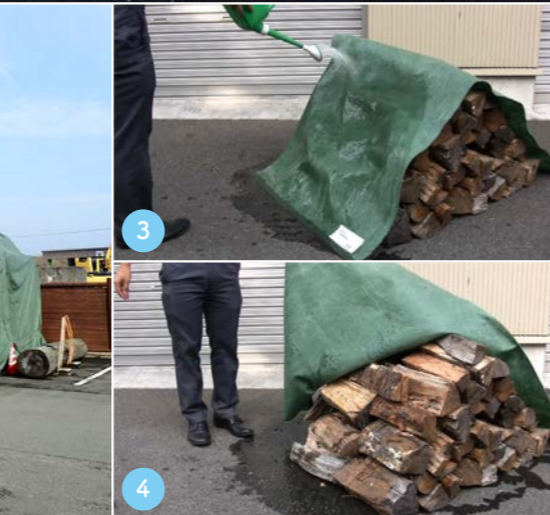
1



2

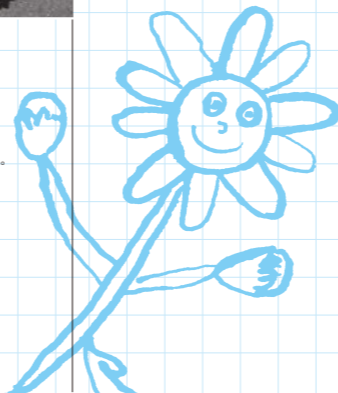


5

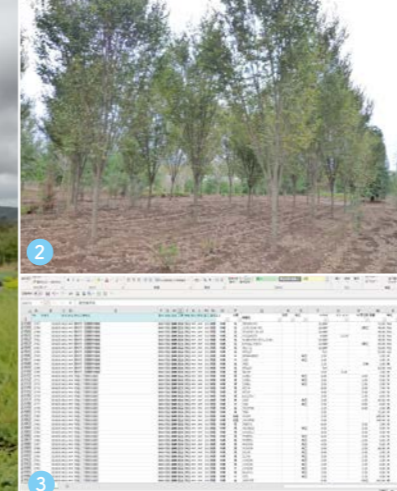


6

- 1 木質チップ燃料への敷設例。
- 2 こちらは丸太への敷設例。様々な木質資源に利用されています。
- 3 水蒸気は通しますが、水は通さない素材です。
- 4 水をかけても木材は濡れず、木材に含まれる水分は蒸散されます。
- 5 切り込みを入れ釘に引っ掛けて、強く引っ張る様子。
- 6 強度にも優れ、強い力がかかっても破れません。



1



2

3

- 1 当社と取引のある生産者の圃場の様子
- 2 樹木が大きく成長するには時間がかかるため、先々のトレンドを予測して生産が行われます。
- 3 業務基幹システムから集められた樹木本数の集計表

植物を植える責任・調達する責任

活動時期 2018年2月1日～現在

活動場所 日比谷アメニス本社（東京都港区三田）

「創業以来、私達はどのくらいの植物を植えてきたんだろう？」ある時、過去のデータも資料も無いことに気が付き、植物の命を扱う会社の責任としてデータを集め、今後に活かさなくてはと考えました。植栽計画をする場合、土地、周辺環境、歴史的背景といった条件に加えて、最近では在来種を使った植栽が主流になるなど、多様化するニーズに対応することが求められます。データを分析し、市場の植物のトレンドを見える化することで、生産者への情報提供にも役立てたいと考えています。

活動の
目的

まずは私達自身が、どの植物をどれだけ使っているのかを知ることが重要です。その上でデータの整備を行えば、植栽計画で求められる傾向が見えてくるはず。もしかするとそこに、建設市場と生産現場の需供のバランスを調整するヒントもあるかもしれません。

取り組み
成果

需供のバランスを予測することによって、生産者は何をつくれれば良いのかが分かり、安心して生産に臨めるようになります。安定して需要のある植物、希少性のある植物など、タイムリーな市場情報を掴むことで供給も安定し、お客様に最高の緑地空間を提案できます。

今後の
目標・
課題

ここ数年、植物の生産者は減少傾向にあります。これは植物を扱う私達にとっても大きな課題です。今後もデータ分析の精度を高めながら、生産者にとって有益な活動を続けることで、持続可能なサプライチェーンを作りたいです。



1



2

- 1 熱交換性塗料を施工して完成した校庭。
- 2 熱交換性塗料を吹き付ける施工の様子。

熱交換性塗料による快適な 校庭環境づくり

活動時期 2016年3月1日～現在

活動場所 豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校（東京都豊島区池袋）他

近頃、都市部では統合される学校の新築・改修工事が増加しています。都市部の学校の校庭では土よりも砂埃が立たず雨天後も回復の早い全天候型のグラウンドが採用される傾向がありますが、校庭に熱がこもりやすく熱中症やヒートアイランド化の原因になるというデメリットがありました。そこで池袋本町小学校・池袋中学校の全天候型グラウンドに熱交換性塗料を使用し、快適な運動環境づくりを目指しました。

活動の
目的

夏場に「暑いから校庭に出るのがいやだ」「地面が暑すぎて触れない」といった子供たちを少しでも減らし、毎日好きなだけ安心して運動ができる、そんな以前までは当たり前だった運動場をつくることを目的にしました。

取り組み
成果

豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校のグラウンドのゴムチップ舗装表面に熱交換性塗料を吹き付けました。熱交換性塗料は表面温度を5～7℃下げた効果が期待できます。その後も複数の学校で熱交換性塗料の施工を行っています。

今後の
目標・
課題

今後も自治体の皆さんと連携を取りながら、校庭への熱交換性塗料の導入を続けていく予定です。ただ単に運動するための場ではなく、そこで活動する子供たちの健康や環境にまで配慮した校庭を作っていきたいと考えています。

活動実施会社 太陽スポーツ施設株式会社

